

常磐線急行

五月頃から増發

上下各二本宛に

四十分の間隔を置いて

平町は恵る

列車のスピードアップを殆んど完成した鐵道省では急行列車を増加して旅客の便を計る事になり東北地方で最も旅客の多い常磐線

上野發 青森行下り二〇一、上り二〇二兩急行列車は十輛編成の建前を現在十三輛に増車して尙は乗客充滿し旅客に不便を與へて

居る状態にあるので兩急行を八輛編成とし四十分間の間隔を置いて上下各二本都合四本の急行を運轉しつは

債務調停の

實効着々奏効す

今年度の郡下委員任命

本郡に於ける今年度金銭債務調停臨時委員は左記百卅九氏が此程任命された、尙作年度の調停受理件数は二百二十一件で前年より廿八件増加したがその内譯は債権者よりの申立が廿五件、債務者よりの申立が百八十六件で調停成立せるもの百六十三件、申立人の取組十九件、未決九件の頗る好成績を示してゐる更にこれを金額別にみると二十圓まで六件、五十圓まで二十九件、百圓まで四十二件、二百五十圓まで六十一件、五百圓まで四十四件、千圓まで廿一件、千圓を超えるもの八件である

成績を示してゐる更にこれを金額別にみると二十圓まで六件、五十圓まで二十九件、百圓まで四十二件、二百五十圓まで六十一件、五百圓まで四十四件、千圓まで廿一件、千圓を超えるもの八件である

- 關内正一 井上茂作 榎田榮太郎 小野園次郎 加納五郎 満山軍次 小野榮一 柏原幸次郎 諸橋國松 新田目善次郎 (小名濱町) 水野政次郎 小松重兵衛 藤社大 福尾伊太郎 長瀬金右衛門 (湯本) 若松孝平 井坂千代松 比佐賢司 坂本左内 松繁庄一 (江名町) 及川富士太郎 佐藤忠熊 太清左衛門 小松金重郎 黒川喜一郎 (植田町) 古川傳一 小野忠衛 鷲清昇 坂東龜太郎 鈴木佐忠 (勿來) 大平陸四郎 横山太一 赤津修一 小杉清三 安島久 渡邊梅吉郎 (四倉町) 花澤賢有 鈴木克哉 菅波千之助 藤須久太郎 新妻盛 (飯野) 北郷喜多次 太田昌雄 (夏井) 酒井榮吉 高木泰造 青木勇次郎 (高久) 小野浩治 鈴木源藏 志賀矢作 (豊間) 鈴木猪之助 山野邊茂左衛門 鈴木留吉 (鹿島村) 吉田正義 新妻賢雄 荒川源重 (磐崎) 土田克己 (右京) 大井川十郎 (内郷村) 四家又一

卓球選手権争覇

本年初顔の体育界を飾る

平第三小學校卓球部は本年の郡下スポーツ界のトップを切つて来る二月二日午前九時より同校講堂で第五回郡下卓球選手権大會を開くが本年より優勝者に新調の優勝旗を贈呈の筈で會費金三十錢、一般選手を歓迎し来る卅一日まで申込を受付ける由

泉青年校へ

教生委託

三週間實地視察 福島縣青年學校教員養成所では教生に地方教育の實際を認識させるため來月十日より廿九日まで三週間縣下

冷害配當金

十年度各町村の

石城郡下各町村の十年度冷害救済事業費の配當額は左の如く決定した

- 田入九、九〇〇圓 永戸一、一〇〇圓 澤渡一三、四〇〇圓 上小川五〇〇圓 川前六、六〇〇圓

第二區學

校長會議

第二區學長會議は今十一日午前十時より湯本町小學校で開かれ本年度實施計畫其他に付協議を行つた

江名水道協議

江名町水道部の業務協議會は本

お年始のお客様に

魚清のサービス

- さしみと御飯 吸物おしんこ付 二十五錢
- 三品 五十せん
- 五品 八十せん

魚清食堂

平二警察署裏通り 電話六三三

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番 醫學士 吉田久雄

回春院長

後任決定

安田善一氏に 豊間村縣立回春院長は缺員中であつたが今回京師帝大醫學部の安田善一氏に決定廿日頃着任するが氏は本縣須賀川町出身、目下京師帝大博士論文提出中の人である

磐城丸が

海上で難儀

高浪に翻弄さる

重要器具を海中に落失

小名濱水産試験場の指導船磐城丸は去る四日漁場視察の爲め同港を出帆したが八日午後六時同船よりの無電通信によると同船は目下小名濱南東六八〇哩の洋上にあり氣壓七六三ミリ、氣温十四度、北西の強風に煽られて浪高く航行中測針器メーターを破損し吸水器を海中に落失する等難行を續けて漁場に向つて居ると

大破した

浚渫船修理

小名濱築港の内務省浚渫船坂東丸は既記の如く昨年十月石城地方を捲席した暴風の爲め大破したのでその後宮城縣釜石港に於て修理の爲め大破したので去る九日から作業に着手した

立話の最中

洗張業の御難

自轉車ぐるみ窃取さる

小名濱町定西洋張業小野仲雄(五)は九日午後七時頃同町阿久津洋服店前で顧客のオート二重廻等五点を自轉車に乗せた儘立話中自轉車ぐるみ何者かに窃取され警部補派出所で捜査中であるが自轉車だけは小名川岸に放棄されてあつたのを発見したと

床置壽像

昨日贈呈式

江名町漁業組合は前組合長佐藤徳太郎氏に床置壽像を

前組合長に
平第二校 平第二小
正副級長 學校は今
十日左記第三學期級長の任命式を行つた
(尋三ノ一)鈴木悦子 佐藤恵美子(三ノ二)小原喜恵子 佐藤玉江(三ノ三)

明日の天気
今晩の部
演舞場中繼
明日の部

昨日改選の結果

上小川派が絶滅

全部下小川派が當選

上下小川組合村は過般村長助役の選挙に當り上小川村議九名は下小川派に村長助役共に奪はれたのを憤慨して連袂辭職したので同組合村は昨日十日村議九名の補欠選挙を行つた結果左記九氏當選したが當選者は何れも下小川派の事として村議中上小川派は全く姿を消して終つた型ちである

五三	榎田	政松
四〇	高木	藤詞
三八	佐藤	茂
三五	佐藤	虎治
同	國井	勝丸
三四	吉田	要助
同	鈴木	安治
三二	鈴木	元丸
三〇	草野	運平

神隠しの老人

實は山奥で縊首を遂ぐ

鐘太鼓で大騒ぎ

鹿島村大字走熊富岡梅氏治實父彌平(五)さんは二三日前用達に出かけた儘行衛不

明になつたので神隠しに逢つたのではないかと部落民の手を借り鐘や太鼓を打ち

今明も明日も北西の風晴曇半す

前九三〇 管絃樂組曲「コーカサスの風景」新交響樂團
前一〇〇〇 日曜勤行
前二〇〇 講演「國旗と國體」松波仁一郎
前二一〇 趣味講演「古鏡」話佐藤虎雄
後八〇〇 五滿洲より「大連港風景」お話杉本義藏
後一二〇 謡曲「草紙洗小町」喜多六平太
後二二〇 謡曲「高橋はつ他」仙臺越中八尾小原節保存會富山

鮪景氣を満喫し

漁船を續々新造

鮪景氣ですつかり有卦に入つてゐる江名、小名濱各漁港は更に今年の飛躍を期し漁船を續々新造中であるが江名町吉田紋三郎氏所有の機關付帆船共進丸(總噸數

素人軍事劇大當り

江名分會の基本金造成

便所に轉落

幼女絶息

下小川村字前原一八九農末次郎三女佐藤ミエ(五)は昨日午後一時頃自宅裏便所で處用中足を踏外して便壺に轉落溺死した

平裁判たより

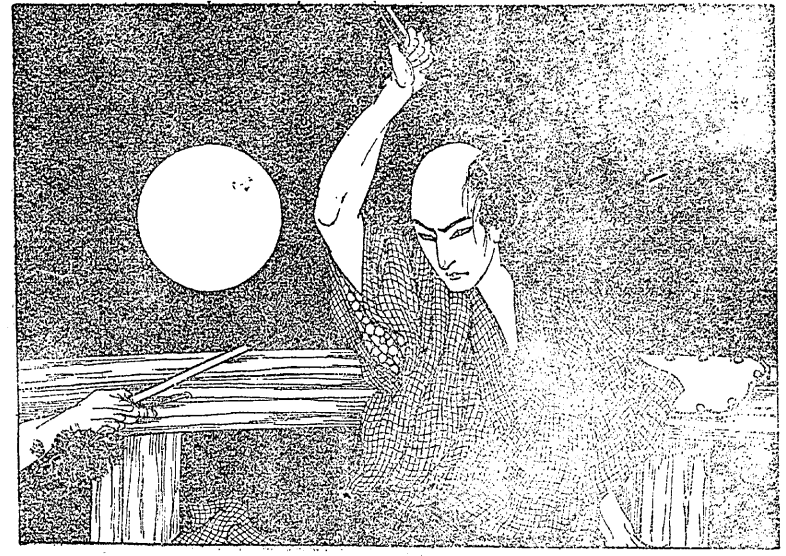
△石城郡湯本村大字湯本字

後二四〇 琵琶「加藤清正」池川旭(長崎)
後三三〇 大相撲實況：兩國國技館中繼
後六〇〇 子供の時間
後六二〇 子供の時間
市各小學校兒童河野鈴子(臺北)
後七三〇 日曜特輯「ユ」ス演藝
後八〇〇 自作朗讀「吉田澤右衛門」小島政二郎
後八二五 獨唱 有馬大五郎：桃谷中繼
後八五〇 浪花節「滿洲事變九月十八日」桃中如雲(福岡)
△精米店員 二十才 尋卒
△雜役二十才 尋卒 給料
△トラック助手 二十前後 尋卒 日給六十錢
△店員 二十九才 高卒
△拍子 二十七才 高卒
△集金人 四十六才 高卒
△大工 三十才 高卒



死解の設
丸尾至陽 (作)

二一 新大橋の捕物
堀織部正の家來、三島三郎、吉野政助は水戸家の浪人細谷忠齋と謀し合せ、老中安藤對馬守を討たむものと折々同志と共に會合致すとすると翌文久の元年五月高輪東禪寺の英國の公使館に浪士が斬り込んだ、此時に私の縁者も幕府から公使館守備として詰めてゐたさうですが、非常な騒ぎであつたとの事、この事あつてより一層浪士の取調べがきびしくなつて來た。三島三郎に吉野政助は糺明に借家して煙草の行商人と化けてゐたが、三郎はその年の七月のこと深川八名川町に居る細谷忠齋のもとを訪はむと日の暮に住居を出て、小田原提灯をさげ道をしてらし、あれから半藏門について左に切れ三宅坂にかゝり、櫻田へ出て日比谷御門から堀橋を渡り、右に切れると思案橋、こゝまで來ると後から急ぎ足に來る者がある、ふりむいて見ると小包を背にしてこれも小田原提灯をさげた男、それがあとになり先になり小網町の裏手の稻荷堀まで來た、今は堀



三「何ぞ用かね」
○「提燈のあかりを消しましたか」
三「火が消えたかな、何ころんだと」
○「へエ、道が悪うござい

まして右に躓づいた時に火を深しましたよ、なアにね提燈などは要りませんが、近頃は無提燈であるくと見廻りの役人に咎められまして引つ張り上げられて調べられますよ」
三「さうだな、それでは火なつけないさ」
○「へえ有難うございませぬ」
その人は腰をかきめて三郎の提燈の火をうつし
○「旦那はどちらへお出になりますね」
三「深川まで行きます」
○「へエ、さうでございませぬ、赤坂まで行きました歸りでございませぬ、イヤもう近頃は江戸の町は物騒で時々ためし斬りが出まして罪もぬえ者を殺します、それですから更けますと一人では歩けません」
三「いやな世の中になつたな」
○「異人が來てから以來江戸の人氣がガラリと變りましてよ、時に旦那の御商賣は何でございませぬ」
三「わたしは煙草屋さ、それも裏々を賣つて歩く小商人さ」
○「さうでございませぬか、宜い御商賣でございませぬ、私は古着をあつかつて居りますが、暑い中は宜い儲けもございませぬ、時に大分更けたやうでございませぬが」
三「まだ十時にはなるまいな」
○「そんなものですか、淋しいところでございませぬから更けたやうに思はれます、何しろこゝは屋敷ばかりで道を聞くことも出来ませんや」
と話しながら新大橋近へ來た、右は中洲、左は秋元侯と安藤侯の屋敷、その向ふの川岸には町家がある、今大橋の中頃までかゝつて來た。
○「あ、痛い、こんなところは何うして釘なぞが出たか、今夜はろくなことは無え」と言ひつゝ足をさすつてゐる

三「何うしたえ、足を痛めたか」
三郎がそばへ寄つた時に左の手で提燈をばらりと振り右の手をのばして三郎の腕をしつかり押へ
○「神妙にしる、御用だ」と飛びかゝつた、一足下がつた三郎はばらりとその手を振り拂ひ、同時にふところの呑んでゐた短刀を引き抜いた。

磐城名産
干やなぎ
味美 鯉しほから
当店特製
鯉節賣出し
魚問屋
店商榮盛賀志
(三二一電) 目丁野平

看護婦急派
求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七
木村病院
平町新川町十九
電話一六四番

レストラント 平曾館
電話 524

齒科口腔外科
レントゲン科
平町土橋通り
電話三一三番
院長 東京齒科 原 精一
原齒科醫院